

令和2年度

教育委員会点検評価報告書
(令和元年度対象)

令和2年9月

大鰐町教育委員会

目 次

I	点検・評価の概要	1
II	点検・評価の対象及び方法	1
III	評価委員	1
IV	評価委員会	1
V	令和元年度（平成 31 年度） 大鰯町の教育	1
	1 大鰯町が目指す町の姿	
	2 大鰯町教育委員会の基本方針	
	3 令和元年度（平成 31 年度） 大鰯町教育方針体系図	
VI	教育委員会の活動状況	3
	1-1 教育委員の構成（平成 31 年 4 月 1 日現在）	
	1-2 教育委員の構成（令和 2 年 3 月 31 日現在）	
	2 教育委員会会議の開催状況	
	3 教育委員の行事等参加状況	
VII	主要施策の点検・評価	7
	1 学校教育の推進	
	2 社会教育の推進	
	3 芸術文化の振興と文化財の保護活用	
	4 生涯スポーツの振興	
VIII	令和元年度（平成 31 年度） 主な事業と経費及び成果等	28
IX	評価委員による点検・評価	32

I 点検・評価の概要

趣 旨

地方教育行政の組織及び運営に関する法律で、教育委員会は、毎年その権限に属する教育行政事務の管理及び執行の状況について点検・評価を行い、その結果に関する報告書を議会に提出するとともに公表することが規定されております。

この法律の規定により、大鰐町教育委員会では、今後の効果的な教育行政の推進及び町民への説明責任を果たしていくために教育に関する点検及び評価を実施し、報告書にまとめました。

II 点検・評価の対象及び方法

点検・評価の対象は、前年度に管理及び執行した事務のうち大鰐町主要施策に基づく重点の事務事業を教育委員会が自己評価しました。

- A…達成している
- B…ほぼ達成している
- C…やや達成していない
- D…達成していない

III 評価委員

- ・藤田昇治（元弘前大学生涯学習教育研究センター長
兼大学院地域社会研究科准教授）
- ・笹田和夫（元中学校校長）

IV 評価委員会

- ① 令和2年 7月29日（水）
- ② 令和2年 8月21日（金）

V 令和元年度（平成31年度） 大鰐町の教育

1 大鰐町が目指す町の姿

湯の郷・雪の郷・りんごの郷 おおわに

- ① 美しく・潤いのあるまちを創る
- ② にぎわいと住みやすさのあるまちを創る
- ③ 活力と夢を育むまちを創る
- ④ 豊かな心と学びのまちを創る
- ⑤ 健やかで笑顔のあるまちを創る
- ⑥ みんなで築くまちを創る

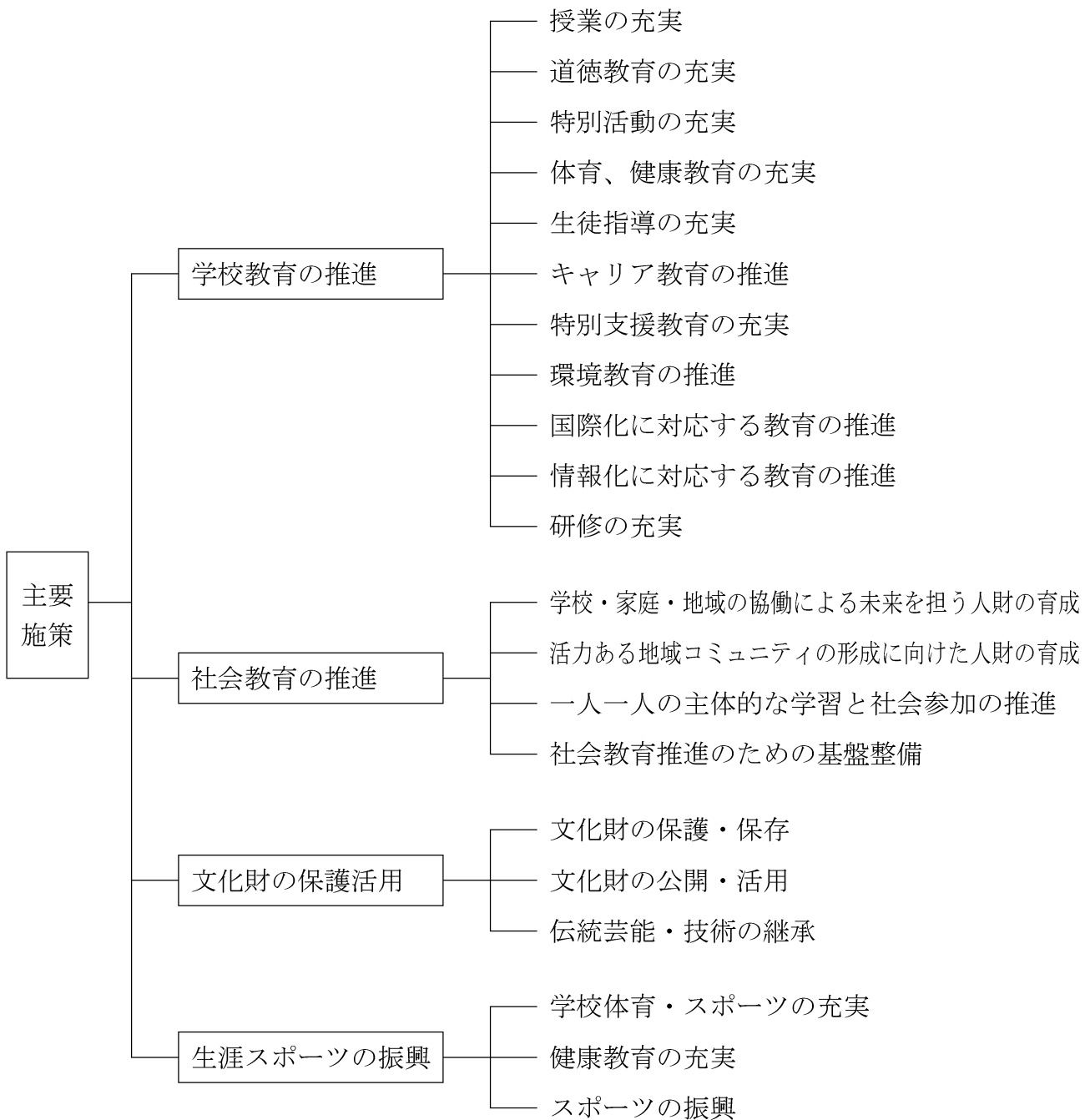
（第5次大鰐町総合振興計画）

2 大鰐町教育委員会の基本方針

大鰐町教育委員会、その他関係機関・団体との連携を図りながら、町を育てる学力、町に生かせる学力を育てていきます。

大鰐町の未来を創る人財の育成
一人一人が学び、郷土を愛する、心豊かでたくましい人づくり

3 令和元年度（平成 31 年度）大鰐町教育方針体系図



VI 教育委員会の活動状況

1-1 教育委員の構成（平成31年4月1日現在）

役職名	氏名	委員としての任期	委員長及び教育長としての任期	備考
教育長	木田 専一		H28. 10. 29～ R01. 10. 28	H28. 10. 29 新教育委員会制度 による教育長就任
教育長 職務代理者	成田 信一郎	H27. 12. 18～ R01. 12. 17		H28. 11. 7 教育長職務代理者就任
委員	小西 祐	H28. 10. 29～ R02. 10. 28		H20. 10. 29 就任
委員	貴田 範子	H30. 7. 13～ R04. 7. 12		H23. 7. 13 就任
委員	山口 裕子	H29. 12. 25～ R03. 12. 24		H29. 12. 25 就任

1-2 教育委員の構成（令和2年3月31日現在）

役職名	氏名	委員としての任期	委員長及び教育長としての任期	備考
教育長	木田 専一		R01. 10. 29～ R04. 10. 28	H28. 10. 29 新教育委員会制度 による教育長就任
教育長 職務代理者	成田 信一郎	R01. 12. 18～ R05. 12. 17		R02. 1. 9 教育長職務代理者就任
委員	小西 祐	H28. 10. 29～ R02. 10. 28		H20. 10. 29 就任
委員	貴田 範子	H30. 7. 13～ R04. 7. 12		H23. 7. 13 就任
委員	山口 裕子	H29. 12. 25～ R03. 12. 24		H29. 12. 25 就任

2 教育委員会会議の開催状況

教育委員会会議は、原則として毎月1回「教育委員会定例会議」を開催している。また、必要に応じて臨時会を開催し、令和元年度（平成31年度）の定例会は12回、臨時会は2回開催された。

「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」第13条及び「大鰐町教育委員会会議規則」の規定に基づき、令和元年度（平成31年度）は以下の案件について審議及び報告事項による確認を行なった。なお、定例会では教育長に関わる業務内容を毎回報告し、教育委員間で認識の共有化に努めている。

開催日	件名
第1回 定例会 4月15日	報告事項1 業務報告 報告事項2 平成31年度大鰐町教育委員会事務局職員名簿について 報告事項3 平成31年度教育関係主な事業と経費について 報告事項4 大鰐町の教育について
第2回 定例会 5月13日	報告事項1 業務報告 報告事項2 学校評議員の委嘱について 報告事項3 学校医及び学校薬剤師の委嘱について 報告事項4 大鰐町教育支援委員会委員の委嘱について
第3回 定例会 6月3日	報告事項1 業務報告 報告事項2 児童の事故について 報告事項3 大鰐町特別支援教育就学奨励費支給要綱の一部改正について
第1回 臨時会 6月17日	報告事項1 大鰐小学校緊急保護者説明会の内容について
第4回 定例会 7月1日	報告事項1 業務報告 報告事項2 大鰐町就学援助事業実施要綱の一部を改正する要綱について 報告事項3 学校閉庁日の実施について
第2回 臨時会 7月18日	議案第1号 県費負担教職員の懲戒処分について
第5回 定例会 8月5日	報告事項1 業務報告 議案第2号 令和2年度使用小・中学校用図書採択について 議案第3号 県費負担教職員の服務上の義務違反に係る措置について
第6回 定例会 9月2日	報告事項1 業務報告 議案第4号 令和元年度 教育委員会点検評価報告書（平成30年度対象）について
第7回 定例会 10月7日	報告事項1 業務報告

開催日	件名
第8回 定例会 11月5日	報告事項1 業務報告 報告事項2 大鰐町特別支援教育就学奨励費支給要綱の一部を改正する要綱について 議案第5号 大鰐町立小学校及び中学校の職員の服務等に関する規程の一部を改正する訓令案
第9回 定例会 12月2日	報告事項1 業務報告
第10回 定例会 1月9日	報告事項1 業務報告 報告事項2 寄附採納について 報告事項3 大鰐町私立幼稚園就園奨励費補助金交付要綱の一部改正について 教育長職務代理者の選任について
第11回 定例会 2月3日	報告事項1 業務報告 報告事項2 令和元年度 青森県学習状況調査結果 (大鰐小学校第5学年) (大鰐中学校第2学年) 議案第6号 大鰐町教育委員会公印規程の一部を改正する訓令案
第12回 定例会 3月2日	報告事項1 業務報告 議案第7号 令和元年度学校教育活動表彰について 議案第8号 令和元年度文化活動表彰について 議案第9号 令和元年度スポーツ賞・スポーツ奨励賞表彰について 議案第10号 令和元年度退職教職員表彰被表彰者の選考について

3 教育委員の行事等参加状況

教育委員会は、教育委員会会議のほか、学校行事及び研修会に参加している。

期 日	行事・研修会等	場 所	参加委員
平成31年 4月5日	南地方市町村教育委員会連絡協議会	平川市	全委員
4月6日	大鰐町立大鰐小学校及び大鰐中学校入学式	各学校	全委員
令和元年 5月8日	大鰐町教職員全員研修会	大鰐中学校	全委員
5月19日	大鰐小学校運動会	大鰐小学校	全委員
5月31日	大鰐中学校運動会	大鰐中学校	全委員
5月24日	青森県市町村教育委員会連絡協議会定時総会・研修会	青森市	全委員
7月18日	前期学校訪問 (大鰐小学校・大鰐中学校)	各学校	全委員
7月2日	社会を明るくする運動	中央公民館	全委員
8月10日	大鰐町成人式	大鰐町成人式	全委員
9月27日	南地方市町村教育委員会連絡協議会秋季研修会	藤崎町	全委員
10月29日	後期学校訪問 (大鰐小学校・大鰐中学校)	各学校	全委員
令和2年 2月19日	大鰐小学校スキー大会	大鰐温泉スキー場	全委員
2月27日	大鰐町総合教育会議	中央公民館	全委員
3月13日	大鰐中学校卒業式	大鰐中学校	なし(新型コロナウイルス感染症拡大防止のため)
3月19日	大鰐小学校卒業式	大鰐小学校	なし(新型コロナウイルス感染症拡大防止のため)
3月 日	大鰐町教育委員会顕彰式 (中止)	中央公民館	なし

VII 主要施策の点検・評価

1 学校教育の推進

主要施策	目的等	成果・課題等	評価
(1)授業の充実	一人一人の子どもが、各教科及び総合的な学習の時間等において主体的・対話的で深い学びを通して確かな学力を身に付けることができるよう、言語活動の充実を図りながら、一人一人の能力・適性に応じた指導と学習習慣の育成に努める。	<p>【小学校】</p> <p>既習事項の確認・反復練習・振り返りの活動、また、長期休業明けに漢字と計算テストをするなど、基礎・基本の定着を図った。その結果、CRT 学力検査において、総じて全国平均を上回る、または、近い結果を収めることができた。</p> <p>今後は、関心・意欲・態度が全国平均を下回る学年が見られることから、児童を引き付けるために導入を工夫したり、お互いの考えを交流させたりするなど、授業の改善が必要である。また、上位と下位の差が大きいことから、学力の底上げを図るためにも、児童の実態把握を確実にを行い、個に応じた指導が求められる。</p>	A
		<p>【中学校】</p> <p>『確かな学力』を身に付け、「学び続ける生徒の育成」のために、①NRT、全国学力・学習状況調査等の学力検査に加え、アセスや生徒意識調査等の情意面のアンケート調査の実施・分析、②新学習指導要領の完全実施に向けた「授業づくりのポイント」の明確化と共通理解、③諸検査や調査を踏まえた取組を踏まえた内容の明確化と共通行動</p>	A

		の徹底、の3点について取り組んだ。	
(2) 道徳教育の充実	一人一人の子どもが、人間尊重の精神と生命に対する畏敬の念を家庭、学校、その他社会における具体的な生活の中に生かし、豊かな心を持つことができるよう、全教育活動を通じて道徳性の育成に努める。	<p>【小学校】</p> <p>発達段階を踏まえ、全教育活動を通じて、自他や生命を尊重する態度を育て、居場所づくりと絆づくりに努めた。また、道徳の教科化に伴い、「別葉」を全学年で作成し、各教科・領域でのバランスを図りながら、道徳的实践力が身に付くよう指導に努めた。</p> <p>今後は、自分自身の生き方について考えたり、体験的な学習を通して実感を伴って理解したりすることに加え、「考え、議論する道徳」を実現することで、道徳的価値の理解を深めさせていきたい。</p>	A
		<p>【中学校】</p> <p>特別の教科「道徳」への移行を踏まえ、「考え、議論する」道徳の時間の授業づくりのポイントや評価内容・方法について共通理解を図った。また、別葉を基に全教育活動との関連性を明確にし、「教科書で教えること」を基本に教科書や自作ワークシートを工夫しながら、授業を35時間以上確実に行った。さらには、来年度の新学習指導要領完全実施を前に、通信票指導要録への記載を行い、生徒一人一人の豊かな心の変容について評価することができた。</p>	A

<p>(3)特別活動の充 実</p>	<p>一人一人の子どもが、様々な 集団活動に自主的、実践的に取 り組み、集団や自己の生活上の 課題を解決することを通して、 集団や社会における生活及び 人間関係をよりよく築いてい くことができるよう、必要な資 質・能力の育成に努める。</p>	<p>【小学校】</p> <p>自治的な児童会活動の意識 を高めるために、適切かつ具体 的な指導や支援を進め、異年齢 集団の子ども同士が触れ合い を深める活動を通して、互いの よさや可能性を発揮するよう 努め、児童の自己有用感を育ん できた。また、クラブ活動にお いては、外部講師を活用した り、地域の伝統文化を取り入れ たりしながら、児童の意欲につ なげた。</p> <p>今後は、集団として「合意 形成」を図って実践したり、 自己の課題について「意思決 定」し実践したりすること で、望ましい集団や人間関係 を築こうとする態度を育てて いきたい。</p>	<p>A</p>
		<p>【中学校】</p> <p>自分の「人生」という物語の 『主人公』になること、より良 い学校生活を作っていく『主人 公』になることの願いを込めた 第63期生徒会テーマ「主人公 ～Hero」のもと、①学校行事に 加え日常の委員会活動の活性 化、②主体的に行動できるリー ダーの育成に重点を置きなが ら、「全校話合い活動」「縦割 り班によるテーマ別分科会」 「リーダー研修会」等新たな取 組を実践した。</p> <p>その結果、委員会活動の活 性化やリーダーの主体性の向 上に加え、全校生徒一人一人 の自治意識を高めることがで</p>	<p>A</p>

		きた。また、鰯中祭や体験学習等で、生徒同士が認め合い、励まし合う機会を意図的・計画的に設定したことにより、生徒は「仲間の良さ」「仲間と共に活動する楽しさや充足感」を得ることができた。	
(4) 体育、健康教育の充実	一人一人の子どもが、生涯にわたり自ら進んで運動に親しみ、健康・安全で活力のある生活を送ることができるよう、家庭や地域社会との連携を図りながら、心と体を一体として捉え、健やかな体を育む教育の推進に努める。	<p>【小学校】</p> <p>個に応じた課題の設定、マラソンカード・縄跳びカードの活用により、一人一人に運動の楽しさや喜びを味わわせ、意欲的に体を動かす運動を意図的に設け、指導にあたった。また、1 学年で東北女子大学の先生を招き、健康教育（朝ごはんをしっかりと食べよう）に取り組み、保護者を含め、健康（朝食の大切さ）に対する意欲を高めることができた。</p> <p>今後は、継続的にマラソンカード・縄跳びカードを活用し、意欲を継続させること、また、健康教育を全学年で実施し、系統的に取り組んでいくことが必要である。</p>	A
		<p>【中学校】</p> <p>保健体育の授業では、全ての生徒が課題に一生懸命に取り組めるように、習熟度に応じた練習や、学び合いの場面の意図的な設定などの指導の工夫により、身体を動かすことを楽しみ、前向きに臨むことができた。また、身体の仕組みや規則的な生活のリズムの重要性、運動における怪我や熱中症の予</p>	A

		<p>防などの基礎的な知識の指導を通して、生徒の健康と安全に対する意識を高めることができた。</p> <p>また、食に関する指導計画を基に、家庭科担当教員と栄養教員が協力し、実習や授業実践を行い、生徒の食に対する意識を高めることができた。</p> <p>さらに、生徒一人一人が安全に行動したり、他の人や社会のために貢献したりできるように、学校安全指導計画を基に、安全学習及び安全指導を含む安全教育に取り組み、昨年度は生徒の自転車による交通事故及び校内の事故「0」を達成することができた。</p>	
(5) 生徒指導の充実	<p>一人一人の子どもが、豊かな生活を送ることができるよう、家庭や地域社会及び関係機関等との連携を図りながら、心の結びつきを基調とした指導を行うとともに、問題行動・不登校等の未然防止、早期発見・早期対応に努める。</p>	<p>【小学校】</p> <p>「学校環境適応尺度アセス」「学校生活のアンケート」「毎日の生活をふりかえって」などの各種アンケートを学校で実施される教師と児童の「ふれあい相談」に活用し、児童の思いに寄り添った生徒指導に取り組んだ。また、年3回行われる児童に関する「情報交換会」において、各学級の目を掛けたい児童の共通理解を図り、生徒指導主任を中心に、全教職員での対応を心掛けた。</p> <p>今後も、どんな些細と思われる事案やいじめが疑われる事案についても、「学校いじめ防止プログラム」及び「早期発見・事案対処マニュアル」を活用し、初期対応を確</p>	A

		<p>実に行い、記録を残して対応するなど、管理体制を整えていきたい。</p>	
		<p>【中学校】 豊かな人間性育成のために、 ①生徒指導の方針「見せない見えない生徒はいても、抱えていない生徒はいない」の徹底、②生徒が集団で孤立しないよう、一人一人の悩みやストレスの原因の把握と支援方法の明確化、③生徒一人一人が、「悩みや困り感」をいつでも相談できる環境づくり、の3点に取り組んだ。 その結果、アセスや生徒意識調査によると、先生と生徒及び生徒同士の間関係が良好で安心して楽しく学校生活を過ごせており、多くの生徒は、先生方には厚い信頼を寄せるとともに、心を許せる友達ができていた。 また、別室登校の生徒が、2年生に2名、1年生に1名いたが、不登校の傾向の生徒に対する柔軟な対応により、完全不登校生はおらず、登校の継続に加え鰯中祭や体験学習にも参加できている。さらには、校内外において、重大ないじめや問題行動が発生せず、全生徒が落ち着いた学校生活を過ごすことができた。</p>	A
(6) キャリア教育の推進	一人一人の子どもが、学ぶことと自己の将来とのつながりを見通しながら、社会的・職業的自立ができるよう、必要な基	<p>【小学校】 キャリア教育の全体計画を作成し、所属する集団やみんなのために働く経験や日常の積</p>	B

	<p>盤となる資質、能力の育成に努める。</p>	<p>み重ねを重視し、働くことの大切さや意義を考えさせ、目的をもって意欲的に学ぶ姿勢が身に付くよう指導してきた。また、5・6年生を中心に実施されている。OH!!鰐元気隊キッズの活動は、キャリア教育の一環として続けていきたい。</p> <p>今後は、県から出されている「キャリアパスポート」を有効に活用しながら、特別活動を要として、継続的な指導を心掛けていきたい。</p>	
		<p>【中学校】</p> <p>培いたい資質や能力を明確にししながら、特に学級活動や総合的な学習の時間での進路学習、各学年の体験学習を関連させることで、「働くこと」や「学ぶ意義」に気付けるよう工夫した。また、年度当初に、全生徒及び教職員が Dream Board（自分の目指す姿をまとめたもの）に「なりたい自分」を掲げ、そのための具体的な方法を考えることを通して、キャリアプランニング能力や進路実現に向けて努力する態度を育成することに努めた。また、自己の生き方を振り返り、夢や生き方に触れる機会として、全校及び3年生を対象に「キャリア講話」を実施した。</p> <p>来年度は、本校のキャリア教育を通して培いたい資質や能力と教育活動との関連性を明確にし、教職員一人一人が教育活動ごとの指導の目的を</p>	A

		しっかり理解した上で実践できるようにしたい。	
(7) 特別支援教育の充実	発達障害を含む障害のある子どもが、障害による学習上または生活上の困難を主体的に改善・克服するとともに、そのもてる力を最大限に発揮して自立や社会参加ができるよう、一人一人の教育的ニーズを把握し、適切な指導及び必要な支援に努める。	<p>【小学校】</p> <p>一人一人の児童を生かし、可能性を最大限に伸ばすという視点に立ち、「個別の支援計画」に基づいた支援を心掛けた。また、教育相談の理解の浸透を図るとともに、家庭との信頼関係の構築をすることができた。</p> <p>今後も、具体的な支援を実施すること、教職員の研修の充実を図ること、外部との連携を図ること、地域連携の充実を図ることを念頭に置き、児童や家庭を支援する体制を継続させていきたい。</p>	A
		<p>【中学校】</p> <p>町の教育支援委員会や小中連携協議会等の機会を通して、小学校と綿密に情報交換を行い、保護者との連携を図りながら、指導や支援に努めた。特別支援学級に在籍する生徒については、個別の指導計画と教育支援計画を作成し、保護者に説明し承認を得た上で実践している。また、通常の学級に在籍する発達障害の傾向がある生徒についても個別の指導計画を作成した結果、教職員の支援がなくとも自ら教育活動に参加できるようになった。</p> <p>配慮や支援が必要な生徒については、職員会議や主任会議に加え、学期ごとの情報交換の場を設け、一人一人の生徒の状況の確認及び対応について協</p>	A

		<p>議した。特に、具体的な支援方法については、生徒の困り感を踏まえて、教育支援員によるTTの実施など迅速かつ柔軟に実施した。</p> <p>来年度は、通常学級における配慮や支援が必要な生徒の困り感をより幅広く把握し、個別の指導計画を基に全教職員で共通理解のもと指導に当たりたい。また、誰もがわかる「ユニバーサルデザインの視点」に基づく授業づくりに取り組みたい。</p>	
(8)環境教育の推進	<p>一人一人の子どもが、環境と人間との関わりについて関心と理解を深め、環境に対する豊かな感受性を養うことができるよう、環境保全に主体的に取り組む態度の育成に努める。</p>	<p>【小学校】</p> <p>学校・家庭、地域社会が連携しながら、年2回の資源回収や学区の清掃活動を行い、環境に対する意識を高める活動を行った。また、校内では環境美化計画をもとに、教室の美化に努めるとともに、校内の掲示場所を学習に役立てるよう心掛けた。</p> <p>今後も、身近な自然や社会環境に触れさせることができるよう、体験活動を積極的に取り入れ、学習に有効に活用していきたい。</p>	B
		<p>【中学校】</p> <p>本校の現状に合った環境教育に取り組んでいる。例えば、郷土を愛する気持ちを育てるために町と連携して、新入生によるツツジの植栽を入学記念として行っており、50年以上の歴史がある。この活動を通して自然愛護や生命の尊重</p>	B

		<p>の醸成の一翼も担っている。また、各教科・領域で体験活動を実施することによって、その成果の一つとして、清掃活動が年々丁寧に行われるようになってきた。特に理科においては、草花等植物の観察や地層の観察など調べ学習を充実させ、郷土への興味・関心が高まるように指導した。</p>	
<p>(9) 国際化に対応する教育の推進</p>	<p>一人一人の子どもが、我が国や諸外国の文化と伝統について関心と理解を深めるとともに、国際社会に貢献できるよう、国際理解教育の推進に努める。</p>	<p>【小学校】</p> <p>町の AET や県の国際交流員を積極的に活用し、外国人とのコミュニケーション能力の育成を図った。外国語活動や総合的な学習の時間において、体験的に異文化に触れることができ、児童の意欲的に活動する姿が見られた。</p> <p>今後は、5・6年生の外国語の教科化、3・4年生の外国語活動実施と時間数が増えることから、教師自身による授業のため、研修を深める必要がある。</p>	<p>A</p>
		<p>【中学校】</p> <p>校内に常勤の AET がいる恵まれた環境にある。生徒は英語の授業時間はもちろん、昼休み休憩室での交流や総合文化部の活動などで日常的に AET と接している。また、授業だけでなく英語弁論大会等の指導にも尽力してくれており、生徒の国際理解を深めるとともに、英語によるコミュニケーションへの関心・意欲を高めてくれている。特に、</p>	<p>A</p>

		英語弁論大会の創作の部で、2位、3位の上位入賞を果たしたことは特筆できる。また、各教科や総合的な学習の時間においても、国際理解教育として選択した単元を年間指導計画に位置付け、継続化を図っている。	
(10) 情報化に対応する教育の推進	一人一人の子どもが、情報活用能力を身に付けることができるよう、情報モラルに関わる指導の充実を図り、系統的・体系的な情報教育の推進に努める。	<p>【小学校】</p> <p>デジタル教科書やプロジェクターなど ICT 機器を有効に活用し、児童の意欲や関心を高めながら授業に取り組んだ。また、コンピュータ室も活用し、積極的に調べ学習を行った。</p> <p>令和元年度は、SNS でのトラブルがあったため、臨時で情報モラル教育を行ったり、NTT ドコモの職員を招いて定期的な情報モラル教育を実施することで、家庭への啓発を図ったりした。また、中学校と連携し、「大鰐小・中学校ゲームやスマホの5つの約束」を作成し、児童生徒の健全育成として取り組んだ。</p> <p>今後は、プログラミング教育の実施に向け、PC を Windows10 にアップデートしたり、マイクロビットを導入したりしたので、教職員の研修にも力を入れ、指導できる体制を整えていく必要がある。また、ギガスクール構想の実現に向け、家庭での Wi-Fi 状況を把握し、家庭でリモート学習ができるよう、準備する必要がある。</p>	A

		<p>【中学校】</p> <p>大型 TV や電子黒板、書画カメラ、デジタル教科書が各学年に導入され、各教科・領域の授業で効果的に活用できている。今後、校内 Wi-Fi 環境の整備や GIGA School 事業による生徒へのタブレット配布が実現することにより授業における情報化が一層加速することが期待される。また、教職員への校務用 PC や中南地域共通の校務支援システムの導入により、教職員の多忙化軽減も期待できる。</p> <p>本校の情報モラル教育については、①外部講師を招いた情報モラル教室（講師：弘前人権擁護委員協議会 田中均氏）の実施、②小中（地域）連携した取組「ゲームやスマホの『5つの約束』」の作成、保護者・地域への配布に加え、校内では、③全校朝会や学年集会での注意喚起、④入学説明会での、新1年生保護者に対する説明を通して、情報モラルの向上に取り組んだ。</p>	A
(11) 研修の充実	<p>教員等の資質を高め、教育活動の充実を図るため、計画的・実践的な研修の充実に努める。</p>	<p>【小学校】</p> <p>校内研において、全教員、全学級による提案授業を実施し、組織的で継続的な研修を推進することで、授業力の向上を図った。また、各研修会等への積極的な参加と、参加者からの資料提供及び情報の共有化を図り、学習指導要領の完全実施に向けて、情報収集をし、新年度</p>	A

		<p>に備えた。</p> <p>今後は、教職員に示している、「教員の資質の向上に関する指標」をもとに、教科指導や校務分掌において、自分のキャリアステージに合わせた人材育成を図っていききたい。また、評価基準に関する情報を収集し、令和2年度の指導の評価に備えていききたい。</p>	
		<p>【中学校】</p> <p>「主体的・対話的で、深い学び」を実現できるように、本校生徒の実態及び昨年度までの各教科等の取組を踏まえ、4つの授業づくりのポイントを掲げ、特に生徒が学習内容を理解しているか確認する「まとめの工夫」に重点を置きながら、実践研究に取り組んだ。</p> <p>その成果として、授業参観者からの普段の授業づくりの取組を高く評価するコメント及び、NRT や全国学力・学習状況調査、県学習状況調査等の諸検査結果が右肩上がりであること、学校評価結果が高評価であったことが大きな成果として挙げられる。</p> <p>これらの成果は、校内研修のビジョン（方向性）とゴール（到達点）を共通理解し、授業づくりに日々取組めたからである。また、校内研修</p> <p>[ICT 活用に関する夏季研修、指導主事等による学校訪問（計画訪問、要請訪問等年</p>	A

		<p>3 回程度)、一人一公開授業] や、校内研修 [授業参観研修：他校の授業づくりで定評のある先生方の普段の授業参観、教育センター研修、研究発表協議会（地区、県、東北、全国大会）、免許更新講習] など、多様な研修機会を設定し、教職員の同僚性を高め、資質向上に取り組んだ結果である。</p>	
--	--	---	--

2 社会教育の推進

主要施策	目的等	成果・課題等	評価
(1)学校・家庭・地域の協働による未来を担う人財の育成	青少年の体験的活動の充実	<p>ふるさと子ども教室において、学校教育での実施が難しいねふた教室を地域の方を講師に迎え実施し、体験活動の充実を図った。</p> <p>現段階で実施されている体験活動がねふた笛教室のみであり、マンネリ化が進んでいるため大鰐町の特色を生かしながら体験活動ができる新規事業を協議し令和2年度から実施する予定である。</p>	B
	地域が支えるキャリア教育の充実	<p>県の事業である「地域のお宝物語」の実行委員として大鰐町の高校生14名が参加し、地域の魅力を発信できる人材の育成に努めることができた。</p> <p>2年間の活動により、今後高校生が自分たちの地域への愛着をもち、大鰐町の社会教育に対して協力してもらえるように活動を推進していきたい。</p>	B
	子どもの読書活動の充実	<p>導入された図書管理システムにより、小中学校においては児童生徒の読書状況の確認や読みたい図書を容易に探すことが可能となり、読書活動の充実につながっている。</p> <p>また、公民館図書においても、全国的によく読まれている本や要望のあった本をその都度購入し、掲示物の配置に気を配るなど利用者の読書意欲の向上に努めた。</p>	A

	<p>地域全体で子どもを育む活動の充実</p>	<p>地域の方を講師としての小中学校での俳句出前教室や、生け花・グラウンドゴルフなど町内の団体による小学校のクラブ活動での指導を行った。</p> <p>また、小学校の登下校時間に合わせた通学指導員の配置や大鰐町青少年健全育成連絡協議会による駅前の民間交番「わにっこ安心ステーション」の運営により、地域全体で子どもを見守っている。</p> <p>いずれも若い後継者の育成が課題となっている。</p>	B
	<p>家庭教育支援の充実</p>	<p>放課後の子どもの居場所として放課後子ども教室を実施し、家庭教育支援を行っている。サポーターは県主催の研修会等に参加し、より良い家庭教育支援ができる体制づくりにも力を入れている。</p> <p>また、家庭教育の大切さを理解してもらい、活かしてもらうために家庭教育講座を実施した。多くの保護者の方に参加してもらえよう講師や内容について検討していく必要がある。</p>	B
<p>(2)活力ある地域コミュニティの形成に向けた人財の育成</p>	<p>地域活動実践者の育成</p>	<p>大鰐町生涯学習推進会議により地域活動実践者のネットワークを構築し、大鰐町の生涯学習についての方向性を確認し、活力ある地域コミュニティ形成につなげられるように努めた。今後はコミュニティスクール導入を目指したネットワーク構築・コミュニティ形成に努めていきたい。</p>	B

	地域活動の指導者、コーディネーターの養成	地域活動を行っている団体の代表者や個人からの相談を受け、地域イベント等に対する協力を行い、地域活動指導者の育成につなげることができた。具体的に地域コーディネーターの養成はできていないが、今後積極的な活動を行う団体や個人を支援するコーディネーター養成講座等の周知を行っていききたい。	B
	地域活動に関わる人財のネットワーク形成の支援	平成30年度に引き続き、可能な限り地域住民の講師活用を行った。新たな人材育成を図っていることから人材バンクの整備を含めた、ネットワークの構築と拡大に努めた。	B
(3)一人一人の主體的な学習と社会参加の推進	関係機関との連携による多様な学習活動の支援	成人大学・ふるさと子ども教室・放課後子ども教室・俳句教室等において役場や町内の機関からの協力を得て講師派遣等の支援を受けた。 学習支援の体制づくりとともに学習内容について町民の要望等に応じながら多様な学習活動ができるように機会を設けていききたい。	A
	学習成果を生かした社会参加活動の支援	成人大学では、俳句やポッチャを体験してもらい、俳句大会やニュースポーツフェスティバルへの参加につなげることができた。 学習成果を発揮する場を町内に限定せず、近隣市町村でも発表できるように情報発信に努めていききたい。	B

(4) 社会教育推進のための基盤整備	社会教育推進体制の充実	<p>町社会教育行政の方針と重点に基づき事業を展開するとともに、社会教育委員や参加者の意見をいただき事業内容の見直しを図ってきた。</p> <p>また、点検評価委員会からの評価や指摘事項に基づき、即対応・改善を図っていく体制づくりもしていきたい。</p>	A
	社会教育施設の機能の充実と活用の促進	<p>図書管理システムの導入から4年が経過し図書室利用者の増加はもちろん、県立図書館との相互貸借により多くの図書に触れることができる体制が作られている。</p> <p>公民館の利用についても、役場各課の事業開催、コースや健康サークルなど多くの利用がされている。</p>	A
	社会教育関係職員の養成と資質の向上	<p>社会教育関係事業に関する各種会議や研修会に積極的に職員派遣を行った。</p> <p>町職員の社会教育主事資格所持者の退職等により、現役の社会教育主事が減少している。令和2年度は新型コロナウイルス感染症の影響により講習が中止となったが、令和3年度より計画的な社会教育主事の養成に努めたい。</p>	A
	社会教育関係団体等の活動の支援	<p>各社会教育団体への補助金や職員の参加など、団体活動の支援に努めた。</p> <p>今後も継続的に社会教育団体を支援していきたい。</p>	A

3 文化財の保護活用

主要施策	目的等	成果・課題等	評価
(1)文化財の保護・保存	かけがえのない文化財を次代に伝えるため、適切に管理し、保護・保存に努める。	平成30年に居士区会より申請のあった熊野神社内にある「いちょう（一対）」を町の文化財として指定できる目途がたった。令和2年度早々には指定されるよう配慮していきたい。今後も日頃より町全体で後世に残していきたい文化財について積極的に働きかけを行い国・県・町の種別に関わらず時代に残すべき大切なものを積極的に登録していきたい。	A
(2)文化財の公開・活用	町民が文化財に興味・関心を持ち、親しめるよう、公開・活用と情報発信に努める。	「三ツ目内獅子（熊）踊」「大鰐登山囃子」とも様々なイベントや芸能発表会に参加出演し、技術の継承を図っている。今後も積極的に公開の場を開拓し、補助金等の活動支援をしていきたい。 また、町の文化財の状況を各種たより等で紹介し、文化財に関する意識を高めていきたい。	A
(3)伝統芸能・技術の継承	地域で生まれ、保存・伝承されてきた伝統芸能や技術の継承に努める。	伝統芸能技術の継承を担うには、児童生徒が興味関心を持つことが重要であり、発表の場を提供する必要がある。小中学校との連携が求められる。 また、町外のみならず県外における伝統芸能技術の継承の仕方も参考にしながら本町の継承にも生かしていきたい。	B

4 生涯スポーツの振興

主要施策	目的等	成果・課題等	評価
(1)学校体育・スポーツの充実	<p>児童・生徒が、自ら進んで運動に親しむ資質や能力を身に付け、健康保持増進と体力の向上を図ることができるよう、学校体育・スポーツの充実に努める。</p>	<p>地域の特色であるアルペン・クロスカントリースキーを親しみやすく・楽しめるような環境づくりをして町内児童生徒の体育・健康教育の振興を図るために、スキー場リフト券の助成を実施した。</p> <p>令和元年度は、雪不足や新型コロナウイルス感染症の影響もあり、利用者数は減少した。学校授業以外でもスキー場に行く児童生徒が減った。</p> <p>今後は、スキーに興味を持ってもらえるようなきっかけづくりを考えていきたい。</p>	B
(2)健康教育の充実	<p>児童・生徒が心身ともに健康で安全な生活について理解し実践できるよう、学校、家庭、地域社会の連携を図り、学校保健、学校における食育及び学校安全を総合的に推進し、健康教育に努める。</p>	<p>町給食センター栄養士及び学校担当教諭が連携し、地元の食材や特産品を使用しながら、地産地消の食育活動を行うことができた。</p> <p>食材やメニューの工夫を行い、地元の食材をより多く活用し、児童・生徒の地元へ興味を高めつつ、食物アレルギー対応など、安全な給食の確保をより一層図っていききたい。</p>	B
(3)スポーツの振興	<p>町民が生涯にわたり豊かなスポーツライフを実現できるよう、スポーツに親しむ環境づくりと競技力を向上させる環境づくりの充実に努め、スポーツの推進に努める。</p>	<p>大鰐町を代表するスキー競技は、平成26年度から平成28年度にかけて全国大会を開催し、コースなどの環境を整えてきたが、施設の経年劣化が出てきているため、点検及び修繕に努める。</p> <p>また、虹貝多目的広場については、主に軟式・硬式野球</p>	B

		の練習をしたい団体が利用しており、使用希望をする団体が徐々に増えてきている。各団体が安心・安全に利用できるように環境整備に努める。	
--	--	---	--

VIII 令和元年度（平成 31 年度） 主な事業と経費及び成果等

区分 事業名	決算額 (千円)	事業内容	成果等
部活動補助金	3,006	<p>大鰐小・中学校における部活動等の充実及び発展を図るため、児童生徒が選手として対外競技会等に参加するための費用を補助するほか、必要に応じて備品購入に係る費用を補助している。</p> <p>大鰐小 2,000,680 円 大鰐中 1,005,000 円 <u>計 3,005,680 円</u></p>	<p>大鰐小学校では、マーチングバンド部、スキー部が全国大会への出場を果たし、練習の成果を発揮することができた。</p> <p>また、大鰐中学校では、昨年度に引き続きスキー部が全国大会に出場し、上位の成績を残すことができた。</p> <p>全国大会では、トップレベルの競技を体感することにより、向上心の醸成と技術の向上が図れ、他県の児童生徒との交流など、貴重な体験をさせることができた。</p>
生きる力育成事業	1,321	<p>「確かな学力」「健やかな体」「豊かな心」などの「生きる力」を育むために、決められた予算内において学校長の裁量で自由に予算を執行できる。</p> <p>大鰐小 745,000 円 大鰐中 576,000 円 <u>計 1,321,000 円</u></p>	<p>小学校においては、地域の伝統文化を含む郷土学習や家庭学習の習慣化に取り組み基礎学力の定着に効果を発揮した。</p> <p>中学校においては、受験対策の教材を効果的に使い、学力向上が図られた。</p>
AET招致事業	4,252	<p>【令和元年度実績】</p> <p>人件費 3,990,541 円 旅 費 1,140 円 需用費 2,700 円 役務費 71,946 円 住宅借上 78,809 円 負担金 106,120 円 <u>計 4,251,256 円</u></p>	<p>中学校に AET を配置することによって、生きた英語を体験することができる。</p> <p>また、スピートコンテストや英検の面接練習を手伝い Listening/Speaking 能力の向上に寄与した。</p> <p>また、小学校の外国語活動の授業にも派遣し、中学</p>

			校入学後の英語教科にギャップなく取り組んでいる。
スクールバス運行事業	12,971	長小方面 7,563,478 円 二小方面 2,739,924 円 駒木方面 2,667,402 円 計 12,970,804 円	遠方から通学する児童のためスクールバスを運行し、児童の安全な登下校を確保することができた。
小学校改修事業	68,404	トイレドア改修工事ほか 2,404,000 円 冷房設備設置工事 66,000,000 円 計 68,404,000 円	学校施設・設備等の改修工事等を実施することにより、適切な教育環境の維持管理が図られた。
中学校改修事業	63,250	駐輪場塗装改修工事 2,090,000 円 冷房設備設置工事 61,160,000 円 計 63,250,000 円	
小学校扶助費	5,231	就学援助費・特別支援就学奨励費 学用品費等 1,016,434 円 給食費 1,532,400 円 遠距離通学費 2,681,940 円 計 5,230,774 円	【就学援助費・特別支援就学奨励費】 経済的理由により、就学困難な児童生徒の保護者及び特別支援学級で学ぶ児童生徒の保護者等に対して、教育を受ける上で必要な学用品費や学校給食費の扶助をしたことにより、義務教育の円滑な実施がなされた。
中学校扶助費	4,068	就学援助費・特別支援就学奨励費 学用品費等 2,006,527 円 給食費 1,445,440 円 遠距離通学費 615,830 円 計 4,067,797 円	◇扶助対象者 小学生 35 名 中学生 35 名 【遠距離通学費】 遠距離地域から通学する児童生徒の保護者に対して、通学費の全額又は一部を扶助したことにより、保護者の経済的負担の軽減と義務教育の円滑な実施がな

			<p>された。</p> <p>◇扶助対象者</p> <p>小学生 56名</p> <p>中学生 13名</p>
生涯学習推進事業	348	生涯学習だより・成人大学・ふるさと子ども教室・成人式等各種事業の実施	<p>社会の変化やライフステージに即した事業及び子どもたちが地域文化に触れる機会を設けた事業を展開し、町民一人一人が主体的に学ぶ学習機会の提供を行った。</p>
俳句の街づくり推進事業	216	大鰐温泉俳句の街づくり実行委員会補助金	<p>大鰐町名誉町民第1号である増田手古奈氏の功績を称え、第26回になる俳句大会を実施した。つつじ祭りと同時期に開催し、賑わいを見せた。募集句においては県内外、更には高校からの募集も多数見られた。</p>
生涯スポーツ推進事業	357	生涯スポーツ推進及び普及のため、スポーツ推進委員を各種大会へ派遣し指導を行った。	<p>大鰐町スポーツ推進委員が主体となって毎年開催している『ニュースポーツフェスティバル』は、62名が参加した。当日の悪天候により、急遽会場と種目を変更し、屋内・外問わずできるペタンクなどの種目を公民館で実施。参加者に楽しんでもらいながら、これまで触れたことのないスポーツを体験してもらうことができた。</p>
図書購入事業	496	公民館図書室用図書購入	<p>流行の本や推薦図書をその都度取り揃え、読書意欲の向上に努めることや、児童誌、生活関連雑誌を導入し町民の図書室利用に供することができた。</p>

公民館改修事業	7,124	中央公民館工事等	中央公民館冷暖房設置や集会室の手摺増設工事を行い、施設を利用する方の安心安全を確保することができた。
放課後子ども教室推進事業	1,157	放課後子ども対策事業 教育支援サポーター、コーディネーター謝金等	中央公民館で実施し、平成25年度より中央公民館教室では休館日である月曜日も開催。 放課後における子どもの安全・安心な居場所づくりと有益な余暇活動のための放課後子ども教室を開催することができた。
各体育団体補助金	1,901	町体育協会補助金 1,051,000円 県民駅伝競走大会補助金 558,000円 各種スキー大会 292,000円	令和元年度の県民体育大会の成績は町村の部11位。 県民駅伝競走大会は町の部7位。スキー競技大会については、県大会と東北規模の大会を開催し、成功裏に終了した。
スキー大会用施設整備事業	389	利用人数及び助成金額 小学生 221人 254,150円 <u>中学生 87人 134,850円</u> 計 308人 389,000円	地域の特色であるスキーに親しむ機会が増え、楽しみながら健やかな体を育むことができた。 今後の課題としては、スキー場へ行ったとがない児童及び生徒にも目を向けてもらえるような工夫が必要である。
虹貝多目的広場事業	1,640	虹貝多目的広場環境整備業務委託料 855,854円 虹貝多目的広場備品 448,000円 消耗品費、光熱水費ほか 336,342円	虹貝多目的広場を平成30年から供用開始した。使用団体及び日数は昨年度に比べて増加し、使用頻度が多いのは野球場であった。野球場以外の施設を使ってもらうため周知を進めたい。

IX 評価委員による点検・評価

【教育委員会会議について】

- ほぼ月1回の定例会の会議が12回、臨時の会議が2回開催され、概ね適切に議論がなされている。会議では、定例会の業務報告とともに、生徒の事故や教職員の懲戒処分についても報告がなされ、教育委員と事務局の間の情報共有が図られるとともに、関係する規程の改正や教科書の採択・表彰者の決定などが行われている。また、小学校や中学校の入学式・運動会等の行事や研修会に、教育委員全員が参加していることも評価できる。
- 定例会の他に臨時会が2回開催され、8月5日の定例会では、県費負担教職員の服務上の義務違反に係る措置について審議された。このことについては、児童生徒や保護者並びに地域住民に大きな影響を与えることから今後も継続的な指導を進めていただきたい。

【学校教育の推進について】

- 「授業の充実」や「道徳教育の充実」、「特別活動の充実」、「体育、健康教育の充実」、「生徒指導の充実」、「特別支援教育の充実」、「国際化に対応する教育の推進」などの項目では大きな成果を上げている。それは教員の研修や地域住民、さらに大学・関係機関との連携という形で追求されている点も評価できる。今後、「環境教育」については、「地球温暖化」やマイクロプラスチックの問題なども取り上げ、授業の充実を図っていただきたい。
- 「授業の充実」については、小中とも新学習指導要領の完全実施に向けた「授業の改善」に取り組んでいる。課題として「学力の二極化」を挙げ個に応じた指導に取り組むなど研修体制も充実している。「生徒指導の充実」については、小中とも「学校環境適応尺度アセス」を活用するなどして、問題行動・不登校等の未然防止・早期発見・早期対応に努めている。特に中学校においては、教員と生徒あるいは生徒同士の信頼関係づくりに取り組んでおり、別室登校生徒が数名いるものの生徒全員が学校に登校できるなど成果を上げている。今後も継続的に指導していただきたい。また、小中ともに「福祉教育」に力を入れ、障害者施設や老人施設等において実際に利用者の方と触れ合う体験学習を実施しているが、道徳性の育成やキャリア教育の視点からも大いに評価できる。参考までであるが、実際に中学校の福祉体験学習の協力施設の一職員として、中学1年生6名を担当させていただいた。どの生徒も自然な態度で利用者に接しながら作業等で意欲的に活動しており、小中連携による指導体制の一貫性を確認することができた。なお、「授業の充実」の成果・課題等に、「県学習状況調査」「全国学力・学習状況調査」の結果並びに対応策についての記述がなかった。同調査の結果が学力定着率の全てを表

すものではないと認識しているが公的機関による調査であり、評価委員として今後参考にしていければと考えている。

【社会教育の振興推進について】

- ・ 図書管理システムの導入により、子どもの読書活動を育む上で成果を上げ、住民の図書室利用も拡大している。また、「成人大学」などの事業では関係機関との連携が図れており、これまでの事業の見直しなども積極的に行われている。関係団体への補助金支出も地域の社会教育推進には重要である。今後、いっそう住民一人ひとりの興味関心や蓄積した経験・学習成果などを大切に、学習活動や「社会参加」を育む努力をしていただきたい。
- ・ 県事業との連携では、「地域のお宝物語」の実行委員としての高校生の参加、県立図書館との相互貸借システムを有効に生かした取り組みを展開している。地域団体との連携については、「成人大学・ふるさと子ども教室・放課後子ども教室・俳句教室等」において、講師派遣を受けて事業を実施し成果を上げている。また、「ねふた笛教室」については、「大鰐温泉ねふたまつり」に囃子隊として多くの子どもたちが参加しており、非常に有意義な事業だと考えている。小学校の登下校時間に合わせた通学指導員の配置については、児童の安全確保のためにとっても有効な取り組みであり、今後も継続していただきたい。なお、「コミュニティスクール」導入については、地域の実状に十分配慮した進め方をしていただきたいと考えている。

【文化財の保護活用について】

- ・ 「文化財の保護・保存」や「文化財の公開・活用」という項目では、いずれも大きな成果を上げている。地域に存在する文化財を積極的に保存し活用を図ることは、住民の郷土・地域に関する理解・意識を深めることに結びつき、観光にも役立つ。今後は、北東北・北海道の縄文遺跡群の世界遺産登録の動きにあわせ、地域の埋蔵文化財への関心を高める努力が必要なのではないか。
- ・ 居土地区の熊野神社内にある「いちょう（一對）」の町文化財指定についてはとても意義深く、多くの町民に伝えられるよう配慮を願いたい。また、「三ツ目内獅子（熊）踊」「大鰐登山囃子」の後継者育成については、各団体と連携しながら早急に対応をしていただきたいと考える。

【生涯スポーツの振興について】

- ・ 「学校体育・スポーツの充実」という項目での児童生徒に対するリフト券の補助、「健康教育の充実」という項目での地域の食材・特産品をいかした食育活動、そして「スポーツ振興」という項目での競技スキーコースの点検・修繕は、いずれも基盤的な事業である。今後さらに、生活習慣病を含む健康問題や「仲間づくり」、「社会参加」、指導者養成なども視野に入れて、生涯スポーツの振興に努力していただきたい。
- ・ 町内児童生徒に対してスキー場リフト券の助成をしているが、スキー人口の底上げのためにもとても有効な施策である。また、町民の健康増進や死亡率改善のためにも、児童生徒に対する健康教育を充実させることは非常に大事な視点であり、今後も大いに推進していただきたい。

